



## 高度な導入 Set up and administration

NetApp  
June 02, 2022

# 目次

高度な導入 .....	1
AWS Marketplace からコネクタを作成します .....	1
Azure Marketplace からコネクタを作成します .....	4
インターネットにアクセスできる既存の Linux ホストにコネクタをインストールします .....	7
インターネットにアクセスせずにオンプレミスにコネクタをインストールします .....	11

# 高度な導入

## AWS Marketplace からコネクタを作成します

Cloud Manager からコネクタを直接作成することを推奨します。AWS アクセスキーを指定しない場合は、AWS Marketplace からコネクタを起動できます。Connector の作成とセットアップが完了すると、新しい作業環境を作成するときに、Cloud Manager によって自動的に Connector が使用されます。

### 手順

1. EC2 インスタンス用の IAM ポリシーとロールを作成します。
  - a. 次のサイトから Cloud Manager IAM ポリシーをダウンロードします。  
  
["NetApp Cloud Manager : AWS 、 Azure 、 GCP ポリシー"](#)
  - b. IAM コンソールから、Cloud Manager IAM ポリシーからテキストをコピーアンドペーストして、独自のポリシーを作成します。
  - c. ロールタイプが Amazon EC2 の IAM ロールを作成し、前の手順で作成したポリシーをロールに付加します。
2. 次に、に進みます ["AWS Marketplace の Cloud Manager のページ"](#) AMI から Cloud Manager を導入  
  
IAM ユーザがサブスクライブとサブスクライブ解除を行うには、AWS Marketplace の権限が必要です。
3. [Marketplace] ページで [\* Continue to Subscribe\* ] をクリックし、 [\* Continue to Configuration\* ] をクリックします。

**a**

Cloud Manager - Manual Installation without access keys

By: [NetApp, Inc.](#) Latest Version: 3.8.4

Read below for instructions on how to deploy Cloud Volumes ONTAP.

Linux/Unix ★★★★★ 6 AWS reviews

Typical Total Price  
**\$0.226/hr**  
Total pricing per instance for services hosted on t3.xlarge in US East (N. Virginia). [View Details](#)

Continue to Subscribe

Save to List

Overview Pricing Usage Support Review

### Product Overview

Do NOT subscribe on this page unless instructed by NetApp or redirected here from the NetApp website.

This listing lets you manually launch a Cloud Manager instance without providing your AWS credentials. After launching the Cloud Manager software in AWS, you can access it by entering the instance's IP address in a web browser. If you subscribe here, you still need to subscribe on the listing below for PAYGO charges.

### Highlights

- See Product Overview for instructions on how to deploy NetApp Cloud Manager.

**b**

Cloud Manager - Manual Installation without access keys

Continue to Configuration

< Product Detail Subscribe

### Subscribe to this software

You're subscribed to this software. Please see the terms and pricing details below or click the button above to configure your software.

### Terms and Conditions

#### NetApp, Inc. Offer

You have subscribed to this software and agreed that your use of this software is subject to the pricing terms and the seller's [End User License Agreement \(EULA\)](#). You agreed that AWS may share information about this transaction (including your payment terms) with the respective seller, reseller or underlying provider, as applicable, in accordance with the [AWS Privacy Notice](#). Your use of AWS services remains subject to the [AWS Customer Agreement](#) or other agreement with AWS governing your use of such services.

- デフォルトのオプションを変更し、[\* Continue to Launch] をクリックします。
- [アクションの選択] で [EC2 で起動] を選択し、[\* 起動 \*] をクリックします。

以下の手順では、EC2 コンソールからインスタンスを起動する方法について説明します。このコンソールでは、IAM ロールを Cloud Manager インスタンスに関連付けることができます。これは、\* ウェブサイトからの起動 \* アクションを使用しては実行できません。

- プロンプトに従って、インスタンスを設定および導入します。
  - \* インスタンスタイプを選択 \* : リージョンの可用性に応じて、サポートされているインスタンスタイプ (t3.xlarge を推奨) のいずれかを選択します。

"インスタンスの要件を確認します"。

- **\* Configure Instance \*** : VPC とサブネットを選択し、手順 1 で作成した IAM ロールを選択して、終了保護を有効にし（推奨）、要件を満たす他の設定オプションを選択します。

<b>Number of instances</b> ⓘ	<input type="text" value="1"/>	<a href="#">Launch into Auto Scaling Group ⓘ</a>
<b>Purchasing option</b> ⓘ	<input type="checkbox"/> Request Spot instances	
<b>Network</b> ⓘ	<input type="text" value="vpc-a76d91c2   VPC4QA (default)"/>	<a href="#">Create new VPC</a>
<b>Subnet</b> ⓘ	<input type="text" value="subnet-39536c13   QASubnet1   us-east-1b"/> 155 IP Addresses available	<a href="#">Create new subnet</a>
<b>Auto-assign Public IP</b> ⓘ	<input type="text" value="Enable"/>	
<b>Placement group</b> ⓘ	<input type="checkbox"/> Add instance to placement group	
<b>Capacity Reservation</b> ⓘ	<input type="text" value="Open"/>	<a href="#">Create new Capacity Reservation</a>
<b>IAM role</b> ⓘ	<input type="text" value="Cloud_Manager"/>	<a href="#">Create new IAM role</a>
<b>CPU options</b> ⓘ	<input type="checkbox"/> Specify CPU options	
<b>Shutdown behavior</b> ⓘ	<input type="text" value="Stop"/>	
<b>Enable termination protection</b> ⓘ	<input checked="" type="checkbox"/> Protect against accidental termination	
<b>Monitoring</b> ⓘ	<input type="checkbox"/> Enable CloudWatch detailed monitoring <a href="#">Additional charges apply.</a>	

- **\* Add Storage\*** : デフォルトのストレージ・オプションをそのまま使用します。
- **\* Add Tags\*** : 必要に応じて、インスタンスのタグを入力します。
- **\* セキュリティグループの設定 \*** : コネクタインスタンスに必要な接続方法（SSH、HTTP、HTTPS）を指定します。
- **\* 復習 \*** : 選択内容を確認して、**\* 起動 \*** をクリックします。

AWS は、指定した設定でソフトウェアを起動します。コネクタインスタンスとソフトウェアは、約 5 分後に実行される必要があります。

7. コネクタインスタンスに接続されているホストから Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。

`http://ipaddress:80[]`

8. ログイン後、コネクタを設定します。
  - a. コネクタに関連付けるネットアップアカウントを指定します。  
["ネットアップアカウントについて"](#)。
  - b. システムの名前を入力します。



これで、Connector のインストールとセットアップが完了しました。Cloud Manager は、新しい作業環境の作成時にこのコネクタを自動的に使用します。ただし、コネクタが複数ある場合は、が必要です ["スイッチを切り替えます"](#)。

## Azure Marketplace からコネクタを作成します

Cloud Manager からコネクタを直接作成することを推奨しますが、必要に応じて Azure Marketplace からコネクタを起動できます。Connector の作成とセットアップが完了すると、新しい作業環境を作成するときに、Cloud Manager によって自動的に Connector が使用されます。

### Azure でコネクタを作成する

Azure Marketplace のイメージを使用して Azure に Connector を導入し、コネクタにログインしてネットアップアカウントを指定します。

#### 手順

1. Azure MarketplaceのNetApp Connector VMのページに移動します。
  - ["Azure Marketplaceの一般企業向けページ"](#)
  - ["Azure GovernmentリージョンのAzure Marketplaceのページ"](#)

2. [\* Get it Now\* (今すぐ取得)] をクリックし、[\* Continue\* (続行)] をクリックします。
3. Azure ポータルで、\* Create\* をクリックし、手順に従って仮想マシンを設定します。

VM を設定する際には、次の点に注意してください。

- Cloud Manager は、HDD または SSD ディスクのいずれかで最適なパフォーマンスを実現できます。
- CPU と RAM の要件を満たす VM サイズを選択します。DS3 v2 を推奨します。

["VM の要件を確認します"](#)。

- ネットワークセキュリティグループの場合、コネクタには、SSH、HTTP、および HTTPS を使用したインバウンド接続が必要です。

["コネクタのセキュリティグループルールの詳細については、こちらを参照してください"](#)。

- [\* 管理 (\* Management)] で、[\* オン\* (\* on\*)] を選択して、コネクターに割り当てられた管理 ID\* を有効にします。

管理対象の ID を使用すると、Connector 仮想マシンはクレデンシャルを指定せずに自身を Azure Active Directory に識別できるため、この設定は重要です。["Azure リソース用の管理対象 ID の詳細については、こちらをご覧ください"](#)。

4. [\* Review + create\* (レビュー + 作成)] ページで選択内容を確認し、[\* Create\* (作成)] をクリックして展開を開始します。

指定した設定で仮想マシンが展開されます。仮想マシンと Connector ソフトウェアが起動するまでの所要時間は約 5 分です。

5. Connector 仮想マシンに接続されているホストから Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。

`http://ipaddress:80[]`

6. ログイン後、コネクタを設定します。

- a. コネクタに関連付けるネットアップアカウントを指定します。

["ネットアップアカウントについて"](#)。

- b. システムの名前を入力します。



これでコネクタがインストールされ、セットアップされました。Cloud Volumes ONTAP を Azure に導入するには、Azure の権限を付与する必要があります。

## Azure 権限を付与しています

Azure にコネクタを導入したら、を有効にしておく必要があります ["システムによって割り当てられた管理 ID"](#)。カスタムロールを作成し、そのロールを Connector 仮想マシンに割り当てて、1 つ以上のサブスクリプションに必要な Azure 権限を付与する必要があります。

### 手順

1. Cloud Manager ポリシーを使用してカスタムロールを作成します。
  - a. をダウンロードします ["Cloud Manager Azure ポリシー"](#)。
  - b. 割り当て可能なスコープに Azure サブスクリプション ID を追加して、JSON ファイルを変更します。

ユーザが Cloud Volumes ONTAP システムを作成する Azure サブスクリプションごとに ID を追加する必要があります。

#### ▪ 例 \*

「譲渡対象」：「 / 契約 / D333AF45-0D07-4154-943D-C25FBZZZZ 」、「 / 契約 / 契約 / 54B91999-B3E6-4599-908E-416E0ZZZZ 」、「 / 契約 / E471C-3B42-4AE7-9B59-CE5BBZZZZ 」\*\*



c. JSON ファイルを使用して、Azure でカスタムロールを作成します。

次の例は、Azure CLI 2.0 を使用してカスタムロールを作成する方法を示しています。

「AZ role definition create — role-definition C : \Policy\_for \_cloud \_Manager \_azure \_3.9.8.json

これで、Connector 仮想マシンに割り当てることができる Cloud Manager Operator というカスタムロールが作成されます。

2. 1 つ以上のサブスクリプションのロールを Connector 仮想マシンに割り当てます。

- a. [サブスクリプション] サービスを開き、Cloud Volumes ONTAP システムを展開するサブスクリプションを選択します。
- b. \* アクセス制御 (IAM) \* > \* 追加 \* > \* 役割の割り当ての追加 \* をクリックします。
- c. [\* 役割] タブで、\* Cloud Manager Operator \* 役割を選択し、\* Next \* をクリックします。



Cloud Manager Operator は、で指定されたデフォルトの名前で **"Cloud Manager ポリシー"**。ロールに別の名前を選択した場合は、代わりにその名前を選択します。

- d. [\* Members\* (メンバー\*)] タブで、次の手順を実行します。
  - \* 管理対象 ID \* へのアクセス権を割り当てます。
  - [\* メンバーの選択 \*] をクリックし、Connector 仮想マシンが作成されたサブスクリプションを選択し、[\* 仮想マシン \*] を選択してから、Connector 仮想マシンを選択します。
  - [\* 選択 \*] をクリックします。
  - 「\* 次へ \*」 をクリックします。
- e. [レビュー + 割り当て (Review + Assign)] をクリックします。
- f. 追加のサブスクリプションから Cloud Volumes ONTAP を導入する場合は、そのサブスクリプションに切り替えてから、これらの手順を繰り返します。

Connector には、パブリッククラウド環境内のリソースとプロセスを管理するために必要な権限が付与されました。Cloud Manager は、新しい作業環境の作成時にこのコネクタを自動的に使用します。ただし、コネクタが複数ある場合は、が必要です **"スイッチを切り替えます"**。

## インターネットにアクセスできる既存の Linux ホストにコネクタをインストールします

コネクタを作成する最も一般的な方法は、Cloud Manager から直接、またはクラウドプロバイダのマーケットプレイスから直接行う方法です。ただし、ネットワークまたはクラウドにある既存の Linux ホストに Connector ソフトウェアをダウンロードしてインストールすることもできます。以下の手順は、インターネットにアクセスできるホストに固有の手順です。

**"コネクタを配置するその他の方法について説明します"**。



Google Cloud で Cloud Volumes ONTAP システムを作成する場合は、Google Cloud でも実行されているコネクタが必要です。AWS、Azure、オンプレミスで実行されているコネクタは使用できません。

## ホストの要件を確認

コネクタソフトウェアは、特定のオペレーティングシステム要件、RAM 要件、ポート要件などを満たすホストで実行する必要があります。

専用のホストが必要です

他のアプリケーションと共有しているホストでは、このコネクタはサポートされていません。専用のホストである必要があります。

### CPU

4 コアまたは 4 個の vCPU

### RAM

16 GB

### AWS EC2 インスタンスタイプ

上記の CPU と RAM の要件を満たすインスタンスタイプ。t3.xlarge をお勧めします。

### Azure VM サイズ

上記の CPU と RAM の要件を満たすインスタンスタイプ。DS3 v2 を推奨します。

### GCP マシンタイプ

上記の CPU と RAM の要件を満たすインスタンスタイプ。n1-standard-4を推奨します。

このコネクタは、OSがサポートされているVMインスタンス上のGoogle Cloudでサポートされます ["シールドVM機能"](#)

サポートされているオペレーティングシステム

- CentOS 7.6
- CentOS 7.7
- CentOS 7.8
- CentOS 7.9
- Red Hat Enterprise Linux 7.6
- Red Hat Enterprise Linux 7.7
- Red Hat Enterprise Linux 7.8
- Red Hat Enterprise Linux 7.9

Red Hat Enterprise Linux システムは、Red Hat サブスクリプション管理に登録する必要があります。登録されていない場合、Connector のインストール中に必要なサードパーティ製ソフトウェアを更新するためのリポジトリにアクセスできません。

Connector は、これらのオペレーティングシステムの英語版でサポートされています。

## ハイパーバイザー

認定済みのベアメタルハイパーバイザーまたはホスト型ハイパーバイザー CentOS または Red Hat Enterprise Linux を実行します<https://access.redhat.com/certified-hypervisors>["Red Hat ソリューション : 「 Which hypervisors are certified to run Red Hat Enterprise Linux ? 」 "^]

## /opt のディスクスペース

100GiB のスペースが使用可能である必要があります

## /var のディスク領域

20GiB のスペースが必要です

## アウトバウンドインターネットアクセス

コネクタをインストールし、パブリッククラウド環境内でリソースとプロセスを管理するには、アウトバウンドインターネットアクセスが必要です。エンドポイントのリストについては、を参照してください "[コネクタのネットワーク要件](#)".

## コネクタを取り付ける

サポートされている Linux ホストがあることを確認したら、コネクタソフトウェアを取得してインストールできます。

コネクタをインストールするには root 権限が必要です。

このタスクについて

- インストールを実行すると、ネットアップサポートからのリカバリ手順用に AWS コマンドラインツール（awscli）がインストールされます。

AWSCLI のインストールに失敗したというメッセージが表示された場合は、このメッセージを無視しても問題ありません。コネクタは、工具なしで正常に作動する。

- ネットアップサポートサイトで入手できるインストーラは、それよりも古いバージョンの場合があります。インストール後、新しいバージョンが利用可能になると、コネクタは自動的に更新されます。

## 手順

1. から Cloud Manager ソフトウェアをダウンロードします "[ネットアップサポートサイト](#)" をクリックし、Linux ホストにコピーします。

AWS の EC2 インスタンスに接続してファイルをコピーする方法については、を参照してください "[AWS ドキュメント : 「 Connecting to Your Linux Instance Using SSH 」](#)".

2. スクリプトを実行する権限を割り当てます。

```
chmod +x OnCommandCloudManager-V3.9.16.sh
```

3. インストールスクリプトを実行します。

プロキシサーバを使用している場合は、次のようにコマンドパラメータを入力する必要があります。プロキシに関する情報の入力を求めるプロンプトは表示されません。

```
./OnCommandCloudManager-V3.9.16.sh [silent] [proxy=ipaddress]  
[proxyport=port] [proxyuser=user_name] [proxypwd=password]
```

*silent* 情報の入力を求めずにインストールを実行します。

プロキシサーバの背後にホストがある場合は、`_proxy_is` が必要です。

`proxyport_` は、プロキシサーバのポートです。

`proxyUser` は、ベーシック認証が必要な場合に、プロキシサーバのユーザ名です。

`_proxypwd_` は、指定したユーザー名のパスワードです。

4. *silent* パラメータを指定しなかった場合は、「\*Y\*」と入力してインストールを続行します。

Cloud Manager がインストールされました。プロキシサーバを指定した場合、インストールの最後に Cloud Manager Service (OCCM) が 2 回再起動します。

5. Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。

`https://ipaddress[]`

`_ipaddress_` には、ホストの設定に応じて、localhost、プライベート IP アドレス、またはパブリック IP アドレスを指定できます。たとえば、パブリック IP アドレスのないパブリッククラウドにコネクタがある場合は、コネクタホストに接続されているホストからプライベート IP アドレスを入力する必要があります。

6. NetApp Cloud Central に登録するか、ログインします。
7. Connector を Google Cloud にインストールした場合は、Cloud Manager がプロジェクトで Cloud Volumes ONTAP システムを作成および管理するために必要な権限を持つサービスアカウントをセットアップします。
  - a. ["GCP で役割を作成します"](#) で定義した権限を含むポリシーを作成します ["GCP 向け Cloud Manager ポリシー"](#)。
  - b. ["GCP サービスアカウントを作成し、カスタムロールを適用します を作成しました"](#)。
  - c. ["このサービスアカウントを Connector VM に関連付けます"](#)。
  - d. Cloud Volumes ONTAP を他のプロジェクトに導入する場合は、["クラウドでサービスアカウントを追加してアクセスを許可します そのプロジェクトに対するマネージャの役割"](#)。プロジェクトごとにこの手順を繰り返す必要があります。
8. ログインしたら、Cloud Manager をセットアップします。
  - a. コネクタに関連付けるネットアップアカウントを指定します。  
["ネットアップアカウントについて"](#)。
  - b. システムの名前を入力します。



これで、Connector のインストールとセットアップが完了しました。Cloud Manager は、新しい作業環境の作成時にこのコネクタを自動的に使用します。

Cloud Manager がパブリッククラウド環境内のリソースやプロセスを管理できるように、権限を設定します。

- AWS ["AWS アカウントをセットアップして、に追加します Cloud Manager の略"](#)
- Azure ["Azure アカウントをセットアップして、に追加します Cloud Manager の略"](#)
- Google Cloud : 上記の手順 7 を参照してください

## インターネットにアクセスせずにオンプレミスにコネクタをインストールします

インターネットにアクセスできないオンプレミスの Linux ホストにコネクタをインストールできます。オンプレミスの ONTAP クラスタを検出し、クラスタ間でデータをレプリケートして、クラウドデータを検出してデータをスキャンできます。

ここで説明するインストール手順は、前述の使用事例を対象としています。 ["コネクタを配置するその他の方法について説明します"](#)。

## ホストの要件を確認

コネクタソフトウェアは、特定のオペレーティングシステム要件、RAM 要件、ポート要件などを満たすホストで実行する必要があります。

専用のホストが必要です

他のアプリケーションと共有しているホストでは、このコネクタはサポートされていません。専用のホストである必要があります。

### CPU

4 コアまたは 4 個の vCPU

### RAM

16 GB

サポートされているオペレーティングシステム

- CentOS 7.6
- CentOS 7.7
- CentOS 7.8
- CentOS 7.9
- Red Hat Enterprise Linux 7.6
- Red Hat Enterprise Linux 7.7
- Red Hat Enterprise Linux 7.8
- Red Hat Enterprise Linux 7.9

Red Hat Enterprise Linux システムは、Red Hat サブスクリプション管理に登録する必要があります。登録されていない場合、Connector のインストール中に必要なサードパーティ製ソフトウェアを更新するためのリポジトリにアクセスできません。

Connector は、これらのオペレーティングシステムの英語版でサポートされています。

### ハイパーバイザー

認定済みのベアメタルハイパーバイザーまたはホスト型ハイパーバイザー CentOS または Red Hat Enterprise Linux を実行します<https://access.redhat.com/certified-hypervisors>["Red Hat ソリューション : 「Which hypervisors are certified to run Red Hat Enterprise Linux ?」"]

### ディスクタイプ

SSD が必要です

### /opt のディスクスペース

100GiB のスペースが使用可能である必要があります

### /var のディスク領域

20GiB のスペースが必要です

### Docker Engine の略

Connector をインストールする前に、ホストに Docker Engine バージョン 19 以降が必要です。 ["インスト](#)

ール手順を確認します"。

## コネクタを取り付ける

サポートされている Linux ホストがあることを確認したら、コネクタソフトウェアを取得してインストールできます。

コネクタをインストールするには root 権限が必要です。

手順

1. Docker が有効で実行されていることを確認します。

```
sudo systemctl enable docker && sudo systemctl start docker
```

2. から Cloud Manager ソフトウェアをダウンロードします "ネットアップサポートサイト"。
3. インストーラを Linux ホストにコピーします。
4. スクリプトを実行する権限を割り当てます。

```
chmod +x /path/cloud-manager-connector-offline-v3.9.16
```

5. インストールスクリプトを実行します。

```
sudo /path/cloud-manager-connector-offline-v3.9.16
```

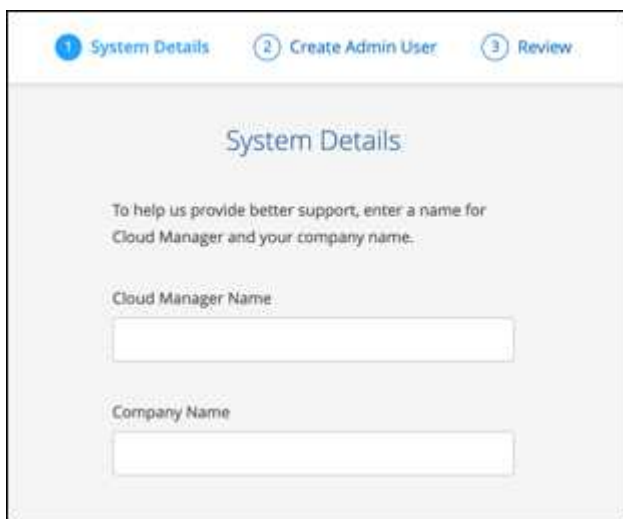
6. Web ブラウザを開き、と入力します `https://ipaddress[]` ここで、*ipaddress* は Linux ホストの IP アドレスです。

次の画面が表示されます。



7. Set Up New Cloud Manager \* をクリックし、プロンプトに従ってシステムをセットアップします。

- \* System Details \* : Cloud Manager システムの名前と会社名を入力します。

The image shows the "System Details" step of the setup wizard. At the top, there are three tabs: "1 System Details", "2 Create Admin User", and "3 Review". The "System Details" tab is active. Below the tabs, the title "System Details:" is displayed. A message says "To help us provide better support, enter a name for Cloud Manager and your company name:". There are two input fields: "Cloud Manager Name" and "Company Name".

- \* 管理者ユーザーの作成 \* : システムの管理者ユーザーを作成します。

このユーザアカウントはシステム上でローカルに実行されます。NetApp Cloud Central への接続はありません。

- \* 復習 \* : 詳細を確認し、ライセンス契約に同意して、\* セットアップ \* をクリックします。

8. 作成した管理者ユーザを使用して Cloud Manager にログインします。

これでコネクタがインストールされ、ダークサイト環境で利用できる Cloud Manager の機能の使用を開始できるようになります。

次の内容

- ["オンプレミスの ONTAP クラスタを検出"](#)



- ["オンプレミスの ONTAP クラスタ間でデータをレプリケート"](#)
- ["Cloud Data Sense を使用してボリュームデータをスキャンする"](#)

新しいバージョンの Connector ソフトウェアが利用可能になると、ソフトウェアはネットアップサポートサイトにアップロードされます。 ["コネクタをアップグレードする方法について説明します"](#)。

## 著作権情報

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。）ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為（過失やその他を含む）のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1 つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許により特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7103（1988 年 10 月）および FAR 52-227-19（1987 年 6 月）の Rights in Technical Data and Computer Software（技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利）条項の（c）（1）（ii）項、に規定された制限が適用されます。

## 商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク <http://www.netapp.com/TM> は、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。